

## ① 新図書館建設構想および学校図書館と学校図書館司書について

現在、新図書館について、パブリックコメントやワークショップなど、町民参加型の新図書館建設のための議論と構想が進められてきました。町民のさまざまな思いや願いは多様化し、快適に利用しやすい図書館建設の為に町民の声を反映する必要があります。また、学校図書館についても、図書校務員などの課題や今後の在り方についても、さまざまな疑問が呈されています。子どもたちや町民にとって有意義なより良い図書館とは何か、再度、思考を巡らせていきたいと考えます。そこで以下の質問について伺います。

- (1) 新図書館整備計画検討委員会や今後の新図書館建設に当たっての町民の関わりについて聞く。
- (2) 読書バリアフリー法に遵守した視覚障害者のための読書環境や館内への誘導体制の整備はどうか。
- (3) 図書館開館時間や祝日などの開館体制についてはどうか。
- (4) 新図書館を学校図書館や公共施設とネットワーク化し、連携を図ってはどうか。
- (5) 学校図書館司書（図書校務員）の1校一人配置についての考えはどうか。今後も十分に配置できる体制なのか聞く。
- (6) 新図書館や学校図書館の意義と在り方と、学校図書館司書（図書校務員）の待遇や役割をどのように考えるか。

## ② 学校給食の全額無償化と無農薬有機栽培給食の導入について

無農薬有機栽培の野菜を使用し学校給食に提供している、オーガニックビレッジ宣言をした南島原市の農林課と無農薬有機栽培農家の畑を拝見し、話を伺ってきました。やはり最初の2年間は大変苦勞をされ、3年目からは立派な有機栽培畑と野菜ができたことを大変うれしそうに話されました。やはり、強い信念と最初から諦めることなく「子どもたちの食の安全と安心を提供したい」との熱い思いが、成功へ導いたと言われました。また、今年4月から諫早市が9,200人以上、雲仙市が約3,000人の小中学校への給食完全無償化を開始予定です。そこで、以下の質問をします。

- (1) 本町の小中学校に配布する給食数はどのくらいか。また、完全無償化するための全額補助額はどのくらいの予算か。また、無償化の考えはどうか。
- (2) 有機野菜は、アレルギー体質の子どもにも有効と考えるが、給食に有機栽培野菜を1品でも取り入れる考えはあるのか。また、どのくらいの予算加算が必要なのか聞く。
- (3) 本町で無農薬有機農家の講師を招き、有機農家体験や土壌づくりのワークショップを開催し、数年かけて本格的に有機農業にチャレンジしてみてもどうか。